

月刊しばうら

2015年 5月号

大動物事業部

< 3月の相場動向 >

3月の牛枝肉相場は、引き続き供給不足などから高値相場を維持するも、和牛去勢で前月比A5が23円安、A4が31円安、A3が33円安、A2が40円安と前月に引き続き徐々に下げの枝肉相場となったが、その半面、交雑牛・乳牛去勢は、和牛の高値相場に比べ値ごろ感のある単価の安いものへと引き合いが集中したことなどから前月比では上伸した。

乳牛去勢はB2が前月比240円高の1,060円とさらに騰勢を強めた。和牛は高値疲れから一服感をみせたものの、いずれも前年実績を大きく上回る枝肉相場となっている。年明けから和牛価格が急騰し、量販店などでは品種や等級を問わず単価の安い商材を確保する動きが進んだことや、さらには輸入量が低水準だったことなどで国産牛肉の需要が強まった。

< 3月牛枝肉月間価格 >

和牛去勢	前年同月比	前月比
A5 2,412円	114.6%	99.1%
A4 2,219円	123.6%	98.6%
A3 2,087円	127.9%	98.4%
A2 1,942円	129.0%	99.0%
交雑去勢		
B4 1,651円	126.1%	103.0%
B3 1,564円	131.4%	103.0%
B2 1,463円	135.0%	101.7%
乳牛去勢		
B3 上場なし		
B2 1,060円	135.4%	129.3%

< 5月の牛肉輸入量予測 >

財務省の貿易統計によると、2月の輸入牛肉通関量は3万5,367t(前年同月比1.1%減)と前年を下回った。内訳は、チルドが1万3,347t(同9.9%減)で、フローズンが2万2,020t(同5.2%増)であった。国別にみると、米国産が1万3,400tでうちチルドが3,971t(同33.0%減)、フローズンが9,429t(同39.6%増)、豪州産は1万6,856tでうちチルドが8,706t(同6.2%増)フローズンが8,150t(同28.8%減)となった。チルドは豪州産が増加したものの、米国産は引き続き米港湾労使交渉による通関の遅れや、現地相場高の影響などで大きく減少した。農畜産業振興機構の輸入予測では、4月は4万5,900t(同0.2%増)でうちチルドが1万8,900t(同2.7%減)、フローズンが2万7,000t(同2.9%増)と予測している。5月の輸入量は、4万1,700t(同1.7%増)でうちチルドが1万6,900t(同6.8%減)、フローズンが2万4,900t(同9.0%増)と予測される。4月・5月とも4万t台を予測しているが、日豪EPA発効によるさらなる関税率の低下に伴い、輸入量は変動する可能性があるとしている。

< 5月の全国出荷頭数予測 >

農林水産省が発表した食肉流通統計によると、2月の全国と畜頭数は成牛が8万5,354頭で(前年同月比0.2%減)であった。内訳は、和牛が3万6,473頭(同0.2%減)で交雑種がほぼ前年並みの1万7,769頭、乳牛去勢は1万6,364頭(同1.1%減)、乳牛牝は1万3,646頭(同1.0%増)で

あった。平年比でみると和牛が4.0%減、交雑種が4.3%減と落ち込みが大きく、品薄高の要因となっている。農畜産業振興機構によると、出荷頭数の減少傾向が継続している中、4月の全国出荷頭数は9万8,000頭(前年同月比0.9%減)、5月は8万5,000頭(同6.3%減)で、うち和牛の4月が1.1%減、5月が7.8%減、交雑種4月が3.4%減、5月が8.9%減と下回る予測をしている。

牛枝肉の相場高を受けて早出し傾向が続いているため、5月以降も供給がひっ迫した状況が続くとの見方である。

東京食肉市場の5月のと畜予定頭数は、18日稼働で7,300頭前後を予定している。

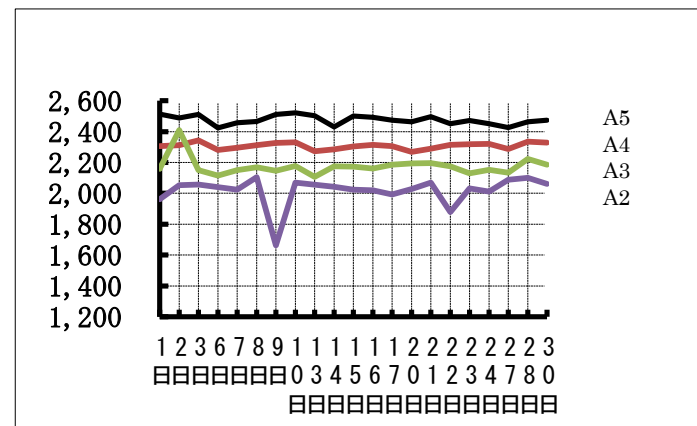
< 5月の牛枝肉価格予想 >

5月の牛枝肉相場は、年明けから続く異常な高値相場により、牛肉の消費離れも懸念される中、今月は昨年よりせり上場日が少なく、月初めの大型連休中の消費量次第では、その後の枝肉相場にも影響を及ぼすと思われる。しかしながら全国的に出荷頭数が減少傾向にあり、品薄感から下げ相場の材料は少ない。

5月からは焼材部位への需要が強まる時期だけに、活発な取引が見込まれるが、肉質等級5等級や高単価のロイン系については伸び悩みが懸念される。一方、和牛に比べ値ごろ感のある交雑牛、乳牛去勢のスソ物については供給がタイトなこともあり引き続き強気な相場展開が続くと思われる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,350~2,450	B4	1,600~1,650
A4	2,200~2,300	B3	1,500~1,600
A3	2,050~2,150	B2	1,450~1,500
A2	1,950~2,050		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	950~1,050		

和牛去勢日別相場表 (4月度)



小動物事業部

農林水産省が発表した食肉流通統計によると、3月の全国と畜は136万6,625頭(前年同月比99.7%)となり前年より減少した。

一方、3月分の豚肉通関実績は、総量で6万5,427t(前年同月比105.5%)と前年より増加し、うちチルドが2万8,999t(同116.2%)と増加した。国別輸入量は米国が1万4,652t(同92.2%)と減少、カナダは1万2,357t(同149.9%)と大幅増、メキシコが1,963t(同145.4%)と大幅増となった。フローズンは、3万6,428t(同98.3%)と前年を下回った。国別輸入量はデンマークが7,841t(同80.1%)、米国が6,788t(同135.8%)、カナダが5,784t(同171.8%)、メキシコが4,644t(同88.2%)であった。

< 4月の豚取引の推移 >

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	59,100	594	575	622
2日	59,400	582	554	602
3日	62,400	574	540	921
6日	60,000	572	542	722
7日	62,400	588	568	983
8日	57,900	609	580	654
9日	60,300	598	581	798
10日	62,800	592	568	842

上旬の全国と畜頭数は前年同時期に比べ少なく6万頭を割る日も続いた。また、当市場の主力出荷産地でもある千葉、茨城ではPEDの発生が続いていることもあり、平均で760頭と前年を下回った。4月に入り学校給食も再開され、ウデ、モモといったスソ物は堅調だが、カタロースやヒレなどは鈍かった。一方で遅れていた米国産の通関が続々と切れ、代替のカナダ、メキシコ産も在庫過多の状況となった。フローズンはモモ、ウデのスソ物の引き合いが強まった。結果、当市場の上物相場は570~600円で推移した。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
13日	61,100	597	573	721
14日	61,900	613	588	887
15日	59,600	620	589	610
16日	60,500	606	577	670
17日	63,100	598	569	832

中旬の全国と畜頭数も前年同時期と変わらずの平均6万頭前半であった。当市場は、平均で740頭の上場となり前年を下回った。枝肉相場は出荷頭数の少ない状況が続いたこともあり600円前後の推移となったが、ロースを除いて全体的な荷動きは鈍く、学校給食で堅調であったスソ物も動きが見られなかった。GWに向け冷凍スペアリブのほか、冷凍ロースや挽き材用スネの引き合いが強かった。輸入チルドではGWに向けた手当てが始まりつつあったが、フローズンはチルドの在庫に余裕があることもあり、引き合いは少なかった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
20日	62,500	594	570	813
21日	64,000	611	568	1,066
22日	62,900	588	553	909
23日	63,300	572	535	919
24日	65,800	587	544	945
27日	68,400	563	523	889
28日	72,400	569	528	1,102
30日	68,900	526	493	1,050

下旬の全国と畜頭数は6万頭前半と前年並みであった。GWの29日前後は7万頭となった。PEDの発生で出荷自

粛が相次いだ昨年と比べ、当市場の取引頭数は平均で960頭と前年を上回った。例年であれば、GW前の手当てを迎える時期ではあったが、輸入チルド中心に在庫に比較的余裕があった為、量販店の特売も輸入チルドにシフトしたことから国産豚の引き合いが見られず、30日には相場も大幅に下げた。

< 5月の豚枝肉相場見通し >

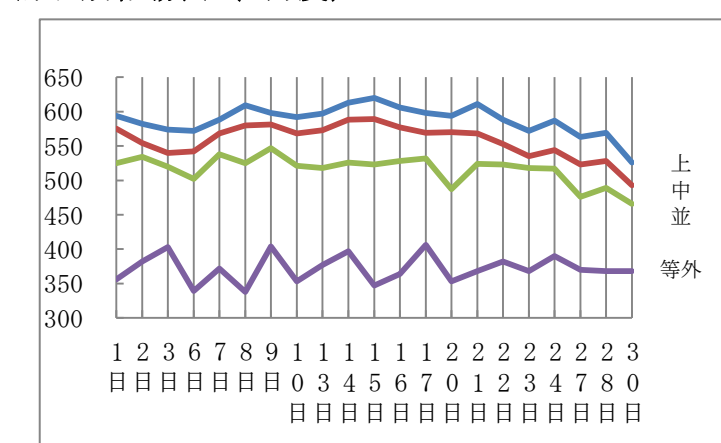
農林水産省による5月の全国と畜頭数は、128万6,000頭(前年同月比98.0%)と予測しており一日当たりの頭数は約6万4,700頭である。当市場の5月の集荷予定頭数は約1万6,500頭となっており、一日当たりでは約920頭を見込んでいる。

一方、農畜産業振興機構による5月分の豚肉輸入見込数量は、総量で5万6,200t(前年同月比77.6%)の予測となっており、内訳はチルドが2万2,300t(同82.5%)、フローズンは3万3,900t(同74.7%)の予測である。

また2月における豚肉推定在庫量は、国産品が1万7,893t(前年同月比81.8%)、輸入は16万1,450t(同116.2%)となり合計17万9,343t(同111.5%)となった。推定出回り量は12万9,413t(前年比96.7%)で、2か月連続で前年を下回った。うち国産品は6万9,075t(同95.9%)輸入品は6万338t(同97.6%)でともに前年を下回った。国内生産量は7万179t(同95.6%)と5か月連続で前年を下回り、輸入量は5万3,963t(同94.4%)と4か月連続で前年割れとなった。

こうした需給の状況下、5月は農林水産省予測で全国と畜が減少していることや、豚肉輸入見込数量も減少予測となっていることから引き続きタイトな状況が続くと見られる。よって、5月の加重平均は上物560円前後、中物540円前後と予測する。

豚日別相場表 (4月度)



出荷者の皆様へ
PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、東京食肉市場では防疫体制を強化しております。
来場の際における生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

東京都港区港南2-7-19
東京食肉市場株式会社
TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127
URL http://www.tmmc.co.jp/